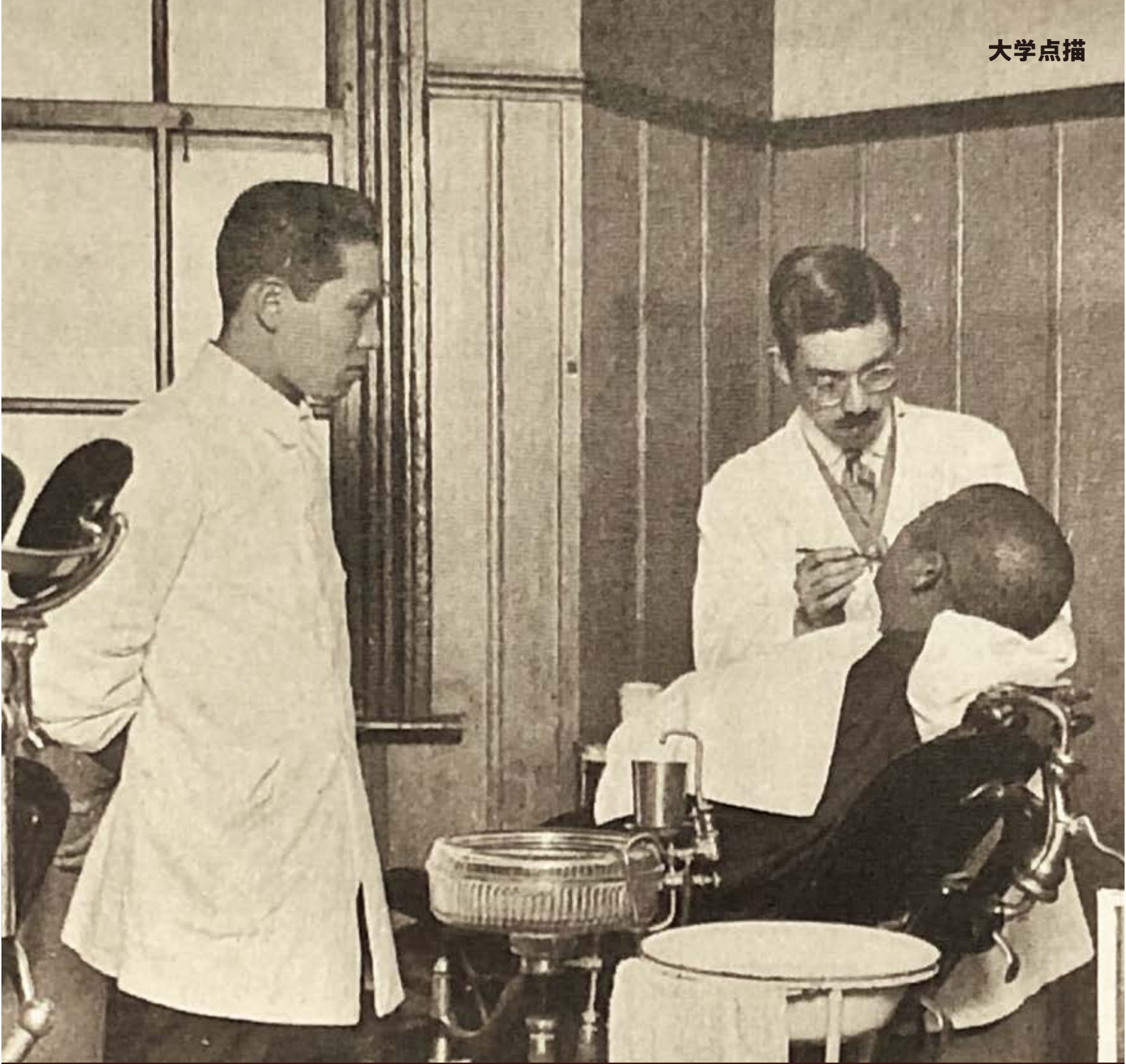




日本初の 歯科医師 養成機関

東京歯科大学の歴史は、一八九〇年に高山紀齋先生によって開かれた、日本初の歯科医師養成機関である。高山歯科医学院に遡ります。当時の日本では先進的な歯科医療の知識を学ぶ道は非常に限られていました。そんな中で米国に留学し、米国の歯科医師免許を取得した高山先生は、帰国後、高度な歯科医学の知識と臨床技術を併せ持つ歯科医師の育成を目指しました。（一〇〇年前の歯科診療風景。診療を行う歯科医師と指導を受ける学生の写真。）



歯科医師 たる前に 人間たれ

東京歯科大学の一三〇年にわたる伝統の根幹をなすのは「歯科医師たる前に人間たれ」という血脇守之助先生（本学初代学長）の言葉です。歯科医師としての知識や技術のみならず、高い倫理観や人間性を持つ、品性ある歯科医師の育成を本学の使命として継承してきました。社会性を身につけ、人間的に優れた良識豊かな歯科医師を養成すべく、充実したコミュニケーション教育が行われています。



東京歯科大学は3つのキャンパスを有し、それぞれに特徴の異なる医療施設を、教育・研究・診療に活かしています。

「水道橋病院」では各診療科で実習を行い、先端医療を含め、様々な治療を学ぶことができます。

「市川総合病院」は、医科歯科連携を直接学ぶことができる貴重な場です。

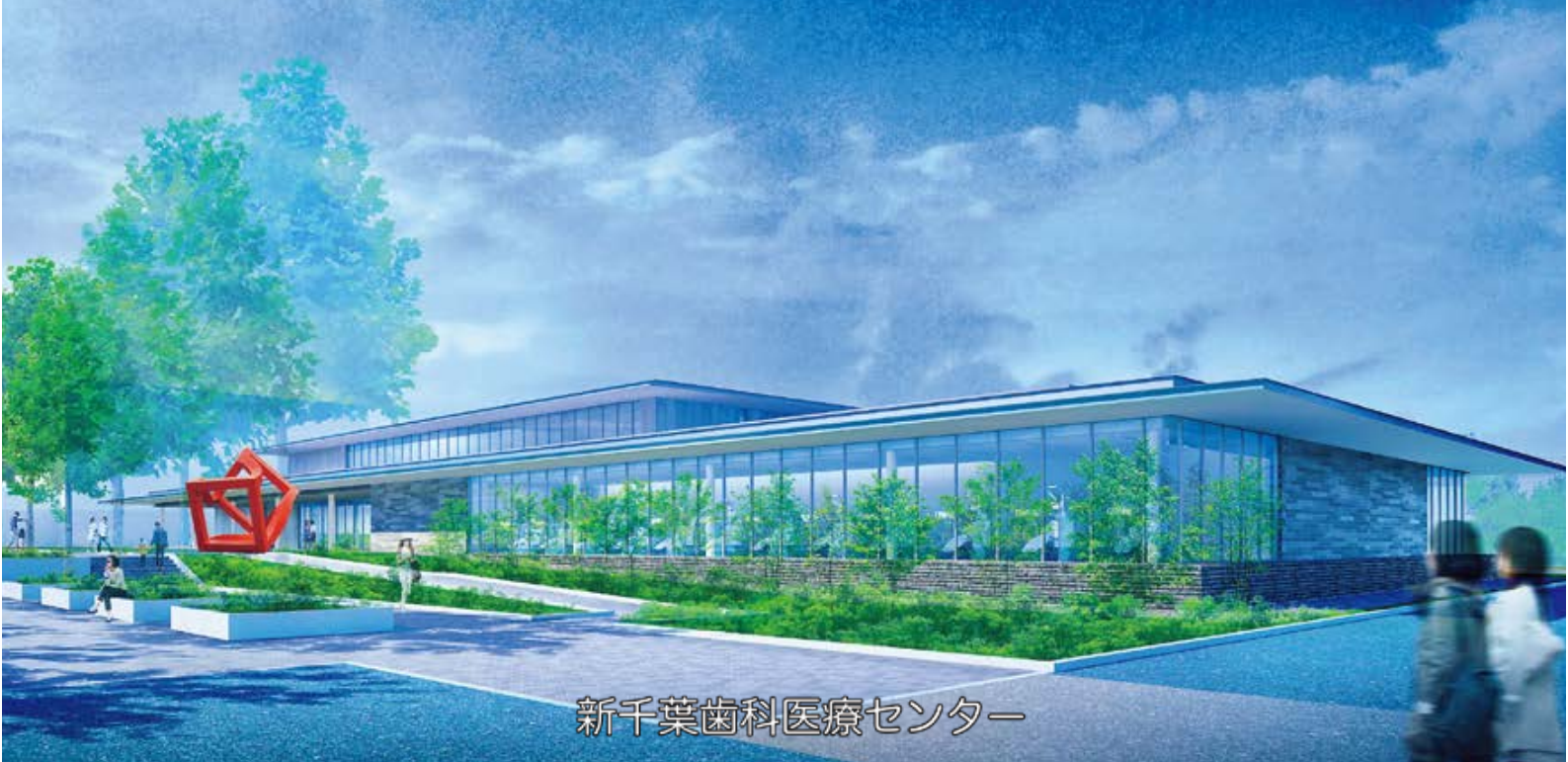
ここでは、スキルスラボを通して、学生や研修医、看護師、リハビリ関係の職員達が共に学んでいます。また口腔がんセンターでは、歯科・耳鼻科・形成外科との連携による一貫性のある医療が行われています。そして「千葉歯科医療センター」では、地域に密着した歯科医療とこれからの歯科医師の育成を目指しています。

今日、社会構造の大きな変貌と共に、歯学・医学教育の在り方が問われています。超高齢化に伴い、全身疾患を抱える患者対応や在宅医療は、国民的ニーズとなっています。歯科医学教育においても、からだを診るだけでなく、多職種連携のチーム医療教育が欠かせない時代となりました。



3つの キャンパス

医学・看護・栄養学の分野でも積極的な連携が必要とされるため、東京歯科大学では、それらの学部を持つ他大学や研究医療機関との共同プログラムを通して、歯学教育のさらなる充実を目指しています。



新千葉歯科医療センター



地域の歯科医療への

貢献

東京歯科大学は千葉病院を一九八一年九月に開院し、高度な歯科医療の提供によって地域医療に貢献してきました。大学機能の水道橋移転に伴い、二〇一八年四月、病院から診療所となり、名称も千葉歯科医療センターに変更されました。

そして二〇二一年春には、新たに生まれ変わることであります。新しく建設される診療施設においては、症状別に細分化された外来を設置し、今までに培ってきた地域との強い連携を活かして、かかりつけ医での対応が困難な専門性の高い歯科治療を行うほか、センターで専門治療が終了した、かかりつけ医を持たない患者様を地域の連携施設へと紹介します。

今後「これぞ歯科大学の医療施設」と呼べる充実した診療環境で地域の歯科医療に貢献していきます。

University Current Review

大学時報

2021.03／NO.397



創立130周年を迎えて

井出吉信

学校法人東京歯科大学理事長
東京歯科大学学長

本学は1890年に高山紀齋先生によって開校された本邦初の歯科医学教育機関である高山歯科医学院を前身とし、創立130周年を迎えた。

本学の伝統の根幹をなすのは、「歯科医師たる前に人間たれ」という初代学長血脇守之助先生の言葉である。歯科医師としての知識や技術のみならず、高い倫理観や人間性を持つ、品性ある歯科医師の育成を本学の使命として継承してきた。今後も教育・研究・診療の広い分野で活躍できる歯科医師を育成し、そのノウハウを次世代へ引き継ぐという責任を果たしていきたい。